

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	29人	算数	29人	理科	29人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	27人	算数	27人	理科	27人
------	----	-----	----	-----	----	-----

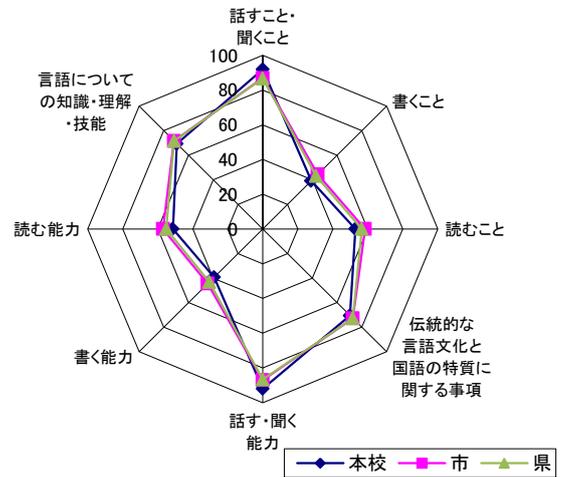
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	92.0	87.0	86.7
	書くこと	39.2	44.5	43.1
	読むこと	52.9	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.5	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	92.0	87.0	86.7
	書く能力	39.2	44.5	43.1
	読む能力	51.4	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	69.4	71.7	71.7



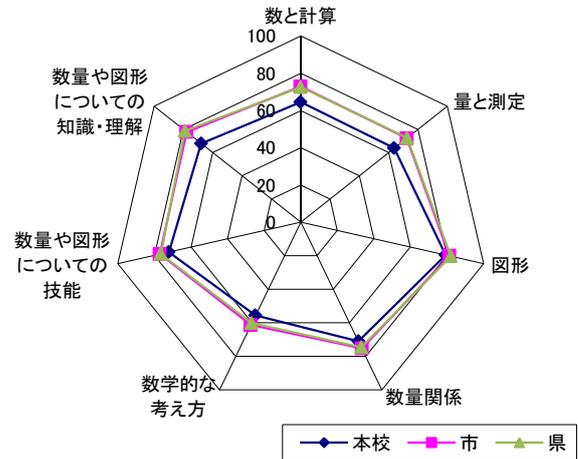
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の中心に気を付けて聞くことができるについては市の正答率を上回っている。	・国語の授業を中心に、話し合いの機会を意図的に設定して、相手の話した内容をメモしたり、質問や意見を伝え合ったりすることを通して、話の中心は何かを意識しながら、正しく聞き取れるようにしていきたい。
書くこと	●お礼の手紙を適切な順序と言葉づかいに書き直すことができるについては、県の正答率を下回っている。	・いろいろな手紙の形式について理解させ、手紙を書く機会を確保することで、共通する基本的な形式を覚えさせ、お礼の手紙や感謝の手紙などが書けるようにしていきたい。
読むこと	○目的や必要に応じて、中心となる語をとらえることについては、県の正答率を上回っている。 ●文と文のつながりに注意して、文章を読むことや、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読むことについては、県の正答率を下回っている。	・説明文では、段落のまとまりや段落相互の関係をとらえさせるために、接続語や指示語を気を付けながら、段落の要点をまとめたり、段落のつながりを図で表したりして、内容を構造的に理解させていきたい。 ・物語文では、様子や気持ちを表す文や言葉に留意しながら、読み取りができるように、教科書に書き込みをしたり、ワークシートに整理したりしながら、進めていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ローマ字による書き方については、県の正答率を上回っている。 ○漢字の書き取りについては、県の正答率と同程度である。 ●主語と述語についての理解は、県の正答率を下回っている。	・漢字の書き取りについては、新出漢字の指導を十分に行うとともに、前学年で学習した既習漢字についても、家庭学習などを通して復習する機会を作るようにする ・主語と述語については、教科書などを使い、もう一度理解させていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.5	72.9	72.6
	量と測定	63.8	72.4	72.6
	図形	79.3	81.4	82.1
	数量関係	71.0	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	55.6	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	72.1	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	67.9	77.8	78.8



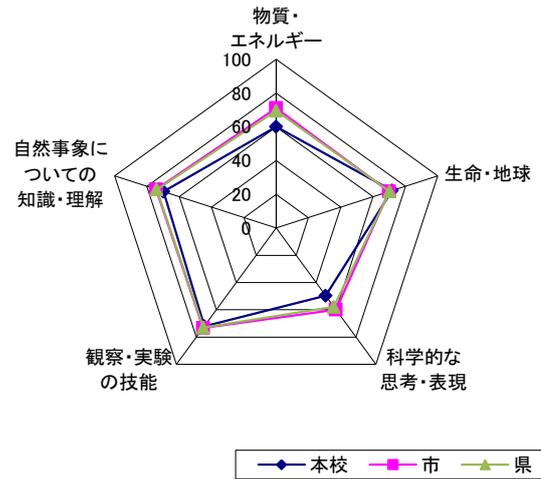
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○3位数×2位数=4位数の計算については、県の正答率を上回っている。</p> <p>●同分母の真分数－真分数＝真分数の計算については、県の正答率を下回っている。</p> <p>●数直線に示された分数の表し方についての理解は、県の正答率を下回っている。</p>	<p>・筆算の位をそろえて計算したり、繰り上がり、繰り下がり、の数字を書かせたりすることを徹底するとともに、見積もりや見直しなども習慣づけできるようにしたい。</p> <p>・分数については、数直線など視覚的に捉えやすいものを活用して、分数の仕組みを十分理解させたい。</p>
量と測定	<p>○時間の分と秒の単位の関係の理解については、県の正答率と同程度である。</p> <p>●ある時刻から一定時間後の時刻を求めることについては、県の正答率を下回っている。</p>	<p>・時刻と時間については、始めの時刻と終わりの時刻、その間の時間を時計の図や数直線に書き表しながら、60進法の仕組みを十分理解させる。</p>
図形	<p>○円の直径についての理解は、県の正答率を上回っている。</p> <p>●二等辺三角形の作図については、県の正答率を下回っている。</p>	<p>・二等辺三角形の作図については、二等辺三角形の性質や、コンパスの使い方をもう一度確認する。作図をする機会を多くとる。</p>
数量関係	<p>○文章問題を解くために除法の式を立式し、その式から正しい答えを求めることができるについては、県の正答率と同程度である。</p> <p>●わり算の文章問題を表した図を理解しているについては、県の正答率を下回っている。</p>	<p>・文章問題においては、キーワードを見付けながら意味をよく考えて式を立てるよう、繰り返し指導する。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.1	71.1	69.6
	生命・地球	71.7	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	49.7	59.8	57.8
	観察・実験の技能	72.0	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	69.8	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○物は形を変えても重さは変わらないことが分かることについては県の正答率を上回っている。 ●物は体積が同じでも、種類によって重さが違うことを説明できることについては県の正答率を下回っている。 ●導線の安全なつなぎ方がわかるについては、県の正答率を下回っている。	・「ものと重さ」については、学習プリントなどで、内容を補足説明する。 ・「電気のはたらき」の学習の際に、具体物を操作させるなどして、回路の意味についてもう一度確認させる。
生命・地球	○身近なせじのかんさつについては、県の正答率を上回っている。 ●モンシロチョウなどの昆虫は、「卵→幼虫→さなぎ→成虫」のように変態することがわかるについては、県の正答率を下回っている。 ●影のできる向きから太陽の向きがわかるについては、県の正答率を下回っている。	・身近な自然や、生き物の観察については、実際に観察する活動を通して学習内容を定着させる。 ・月や星の動きの学習と関連させて、太陽と地面の様子 of 学習内容をもう一度確認させる。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」に肯定的に回答した割合が100%であり、学習することの必要性を一人一人が理解している。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」についても100%の肯定的回答であった。このような実態を踏まえ、さらに、学習意欲を喚起するような課題を工夫して学力の定着を図っていききたい。

○96%以上の児童が、「物事をやりとげてうれしかったことがある」と回答し、また、「人と話すことは楽しい」と回答していることから、友だちと学び合う良さを体験することができていると思われる。

○「将来の夢や希望をもっている」と回答した割合が96%を超えており、「家の人と学校での出来事」「将来のこと」について話すことがあると回答した割合も高く、家の人とよく話し、保護者も児童への関心が高いといえる。

●「家で学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の予習をしている」割合が平均を下回っている。これは、学習の必要性は、理解できているが実際には、家庭学習が習慣化されていないことの表れだと考える。家庭学習の習慣化に向けて課題の出し方や家庭学習の仕方などを根気よく指導していききたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した割合が55%を超えている。普段から書くことに慣れさせたり、内容に合わせた文章の書き方を指導したりしていききたい。

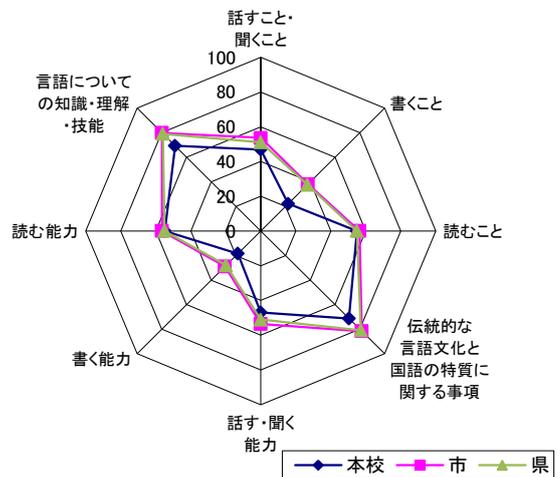
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」と回答した児童の割合が55%と低く、聞くことはできるが話すことは苦手だと感じている傾向が強い様子がうかがえる。1分間スピーチなどを活用しながら話すことに慣れさせたい。

●「食事のとき、好き嫌いをしないで食べている」割合が69%と平均を下回っている。家庭での学習習慣とともに、望ましい基本的な生活習慣が身に付くよう家庭と連携していききたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	46.9	53.6	51.0
	書くこと	22.2	38.1	37.6
	読むこと	54.9	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.3	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	46.9	53.6	51.0
	書く能力	18.5	29.0	28.0
	読む能力	54.9	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	69.3	79.9	79.1



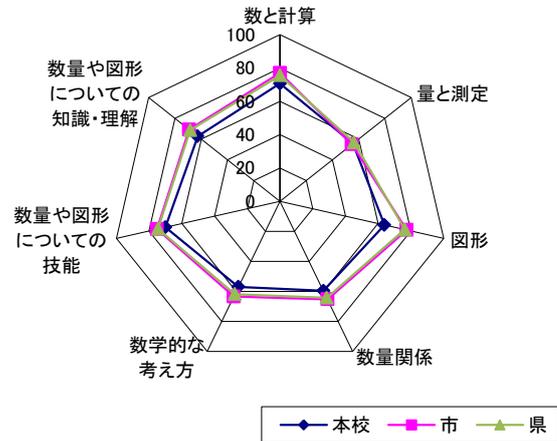
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の中心に気をつけて聞くことについての正答率は、市の正答率と同程度である。 ●司会者の話し合いの進め方の工夫についての理解は、市の正答率を24.0ポイント下回った。	・話の内容のたまかな理解はできるようであるが、話し手の工夫点など細かい内容の理解が苦手な児童が多いことが分かった。話し合いの場面で、工夫点や効果的な言語表現についての確認や指導を行っていききたい。
書くこと	○4つの条件全部を満たし、テーマに合わせて完璧に文章を書けている児童が22%いた。 ●与えられたテーマから外れて書いている児童が44%いた。市の正答率を15.9ポイント下回った。	・条件やテーマに合わせて書く力をつけていくために、決められた字数や段落の構成を守って作文を書く機会を作り、基本的な作文の書き方が身に付いていない児童に改めて指導していききたい。「段落」という用語を理解していないために条件を満たせない児童もいたので用語の意味も再確認していききたい。
読むこと	○説明文の段落相互の関係を捉える問題や物語文の叙述を基に場面の様子を読み取る問題については、県や市の正答率を上回った。 ●説明文の中心となる語や文を捉える記述問題について県や市の正答率を下回った。	・説明文の読解の授業の中で、要点・要約・要旨の意味とまとめ方について確認し、中心となる語や文を捉える学習を重点的に行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○慣用句の使い方については、県や市の正答率を上回った。 ●漢字の読み書きや読点の打ち方、指示語、辞書の使い方に関する問題について市の正答率を大きく下回った。	・漢字の読み書きについて、授業や宿題で反復練習を積み重ねるとともに、定期テストを行うことで定着を図っていききたい。 ・日頃の国語の授業の中で、基本的な文の構成の確認や視写を行っていききたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.7	77.0	75.6
	量と測定	55.6	54.8	56.5
	図形	63.9	77.4	76.3
	数量関係	59.7	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	57.0	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	70.0	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	62.7	69.1	68.4



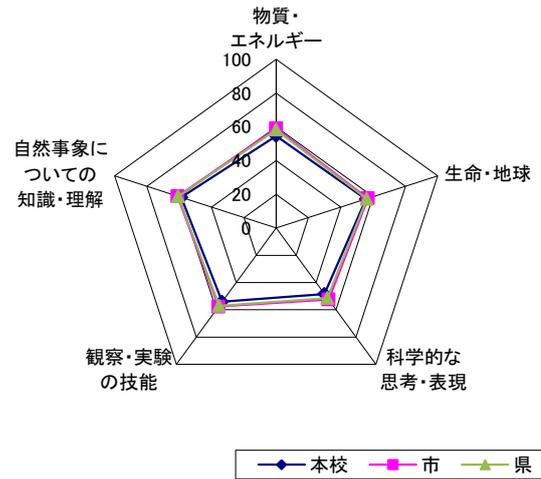
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数直線に示された分数の表し方についてや千の位までの概数の表し方に関する問題では、県や市の正答率を上回った。 ●小数のしくみやわり算について県や市の正答率を下回った。	・わり算、小数については、第5学年でも学習する内容なのでいねいな説明を心がけるとともに、習熟のためのプリント学習を増やすなど、特に重点的に指導し、定着を図る。
量と測定	○面積や角についての量と測定に関するすべての問題について市の正答率を上回った。 ● m^2 と cm^2 の単位の関係の理解や面積の推察の問題について県の正答率をやや下回った。	・面積の単位の関係性に関連して、第5学年では体積の単位の関係性について学習する。具体物の操作など体験活動を多く入れ、実感を伴って理解できるような指導を行いたい。
図形	○ひし形の作図について経年変化をしてみるとできるよになっている児童が増えている。 ●展開図や見取り図についての問題では、市の正答率を下回った。	・展開図や見取り図の基本的な描き方を復習プリントで習得させたい。
数量関係	○計算のきまりや変わり方調べでは、県や市の平均を上回った。 ●()を用いた式、分配法則の問題では、県や市の正答率を下回った。	・分配法則や()を使った計算など日常の授業の中で確認したり、宿題プリントで定着させていく。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.6	59.0	58.3
	生命・地球	55.6	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	48.5	52.5	51.4
	観察・実験の技能	54.1	57.6	57.0
	自然現象についての知識・理解	58.7	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○電気のはたらきについて「電流」という用語の意味や光電池の実験結果の推測に関する問題について正答率が高く、市の正答率も上回った。</p> <p>●2個の乾電池の直列のつなぎ方の理解について正答率が低く、市の正答率も下回った。</p>	<p>・5年の「電流のはたらき」の学習のときに、電池のつなぎ方を復習し、理解させていく。</p> <p>・デジタル教科書や動画などを活用することで、子どもの興味や関心を高めるよう心がける。また、実験や観察などをできるだけ実際に行うことで、体験的にわかる授業の工夫をしていきたい。</p>
生命・地球	<p>○月と星の問題では、月の通り道について正答率が高く、市の正答率を上回った。</p> <p>●人の体のつくりと運動については、2問とも正答率が低く、市の正答率を下回った。</p>	<p>・人の体のつくりについては、6年での学習の際に触れるようにし理解につなげる。</p> <p>・月の動きについては、デジタル教材や動画などで引き続き理解を深めさせていくようにする。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」に肯定的に回答した割合が100%であり、学習することの必要性を一人一人が理解している。また、「授業の目標が示されている」も100%とめあてを意識して学習に取り組んでいることがうかがえる。今後は、さらに学習を振り返る活動を工夫していきたい。○全児童が「物事をやりとげてうれしかったことがある」「人と話すことは楽しい」と回答していることから、友だちと学び合う良さを体験することができていると思われる。

○「将来の夢や希望をもっている」と回答した割合が92%を超えている。「家の人と学校での出来事」「将来のこと」について話すことがあると回答した割合も高く、家の人とよく話し、保護者も児童へ関心をもって接しており家庭での充足感が高い様子が見える。

●「家で学校の宿題をしている」割合が県および市の平均を下回っている。「家で、学校の授業の予習・復習をしている」割合は県および市の平均より高いので、学校で学習した内容の確実な定着に向けて宿題には必ず取り組むよう、家庭学習の中に宿題を位置付け確実に取り組むように根気よく指導していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童が48%を超えている。普段から書くことに慣れさせたり、内容に合わせた文章の書き方を指導して書くことに慣れさせていきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」と回答した児童の割合が59%と低く、「最後まで聞くことができていない」の100%と意識の隔たりが大きく、話すことは苦手だと感じている傾向が強い様子が見える。